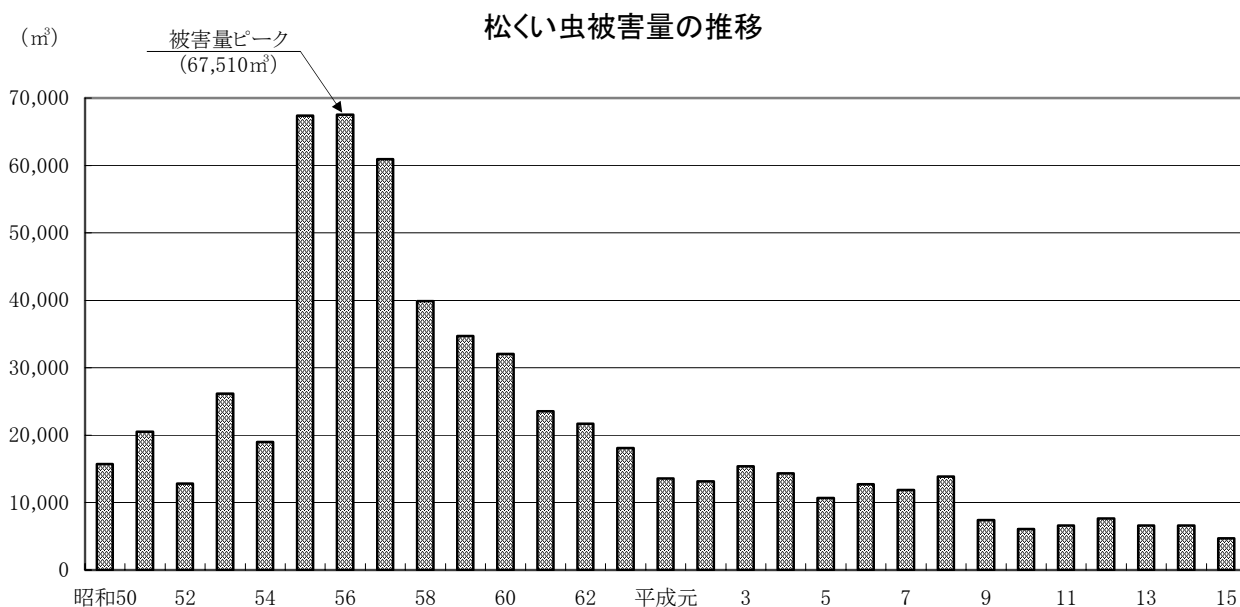


6. 森林の保護

(1) 森林病虫害の防除

— 松くい虫被害対策及びサンプスギ溝腐病対策 —



「みどり推進課資料」

松くい虫被害は、昭和22年に君津市で発生し、47年ごろまでは県南部（安房・君津）を中心に発生していたが、その後中央部（夷隅・長生・千葉）に拡大し、55年には夏の高温少雨に加え、松林が集中する北総地域にまん延したため、被害が急増し、翌56年度の被害量は67.5千 m^3 と過去最高になった。

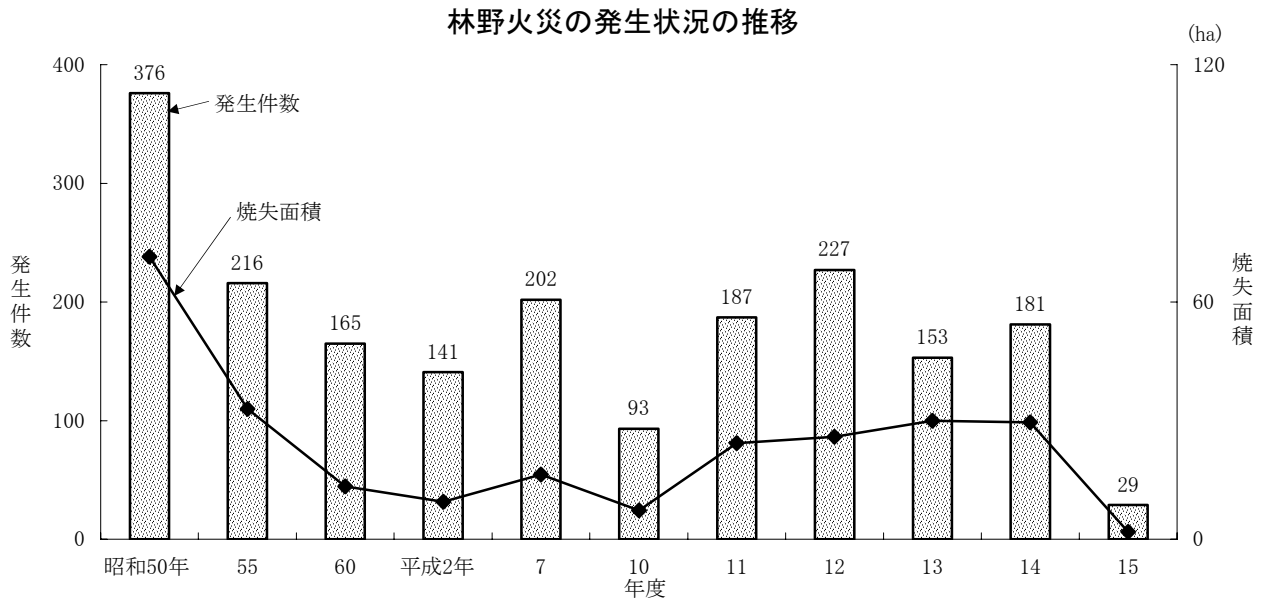
その後、各種防除対策を実施してきた結果、被害量は年々減少し、平成15年度においては4.7千 m^3 となったが、なお恒常的な被害はあり、継続して被害対策を講じていく必要がある状況となっている。

松くい虫被害対策としては、保安林等公益的機能の高い松林を中心に、生活環境や自然環境に配慮しながら、薬剤散布による予防と被害木駆除による感染源対策を実施してきている。

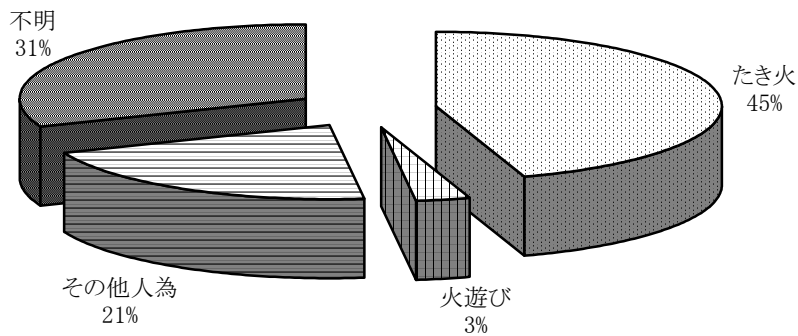
スギ非赤枯性溝腐病被害対策については、被害拡大の原因となる被害木の伐倒駆除を行ってきたが、平成15年度には、サンプスギ溝腐病総合対策事業により7.2千 m^3 の駆除を実施した。

(2) 林野火災

— 面積件数とも大幅に減少した林野火災 —



平成15年度 林野火災の原因別内訳



平成15年の林野火災による焼失面積は1.90ha、件数は29件で、前年と比較すると出火件数、焼失面積とも大幅に減少し、過去最低となった。

発生時期をみると、火災の発生しやすい気象条件となる1～4月に全体の約79%が集中しており、出火原因については、たき火によるものが全体の45%で、不明の31%がこれに次いでいる。

平成15年度は、春期に千葉県山火事予防運動を実施し、県民に防火意識の啓発を図り、森林レクリエーション等による入林者への注意を促すため、林内に山火事予防掲示板、警報旗等を設置した。また、森林保全巡視員による保安林及び林野火災危険地域のパトロールを実施した。